

平成28年1月

和久本圭子 学位論文審査要旨

主 査 海 藤 俊 行
副主査 梅 北 善 久
同 山 元 修

主論文

Novel *in vivo* observations on double acting points of luliconazole on *Trichophyton rubrum*: an ultrastructural study

(*In vivo* における *Trichophyton rubrum* に及ぼすルリコナゾールの2重作用点の新規観察：電子顕微鏡学的研究)

(著者：和久本圭子、山田七子、森野慎一、山元修)

平成27年 Medical Mycology 53巻 860頁～867頁

参考論文

1. Solitary sclerotic fibroma of the skin: morphological characterization of the 'plywood-like pattern'

(皮膚の孤発性硬化性線維腫：木目様パターンの形態学的特徴づけ)

(著者：和久本（中島）圭子、山田七子、足立孝司、吉田雄一、山元修)

平成20年 Journal of Cutaneous Pathology 35巻 74頁～79頁

2. Solitary sclerotic neurofibroma of the skin

(皮膚の孤発性硬化性神経線維腫)

(著者：和久本（中島）圭子、山田七子、吉田雄一、山元修)

平成20年 The American Journal of Dermatopathology 30巻 278頁～280頁

3. Primary cutaneous aspergillosis

(原発性皮膚アスペルギルス症)

(著者：和久本（中島）圭子、山田七子、吉田雄一、山元修)

平成22年 Acta Dermato-Venereologica 90巻 519頁～520頁

審 査 結 果 の 要 旨

本研究はヒト足白癬の鱗屑内に存在する皮膚糸状菌に対してイミダゾール系抗真菌薬のルリコナゾールを外用し、*in vivo* における作用を明らかにする目的で電子顕微鏡により形態学的研究を行ったものである。その結果、走査電顕では従来のイミダゾール系抗真菌外用薬の*in vitro*での濃度依存性の作用と類似した菌糸の形態学的変化が認められた。また、透過電顕では、菌糸の細胞壁における顆粒物質の沈着や層状構造の変化が起こったあとに、細胞膜が破綻することが判明した。本論文の内容は、皮膚糸状菌に対するルリコナゾールの作用は本来標的とするエルゴステロールが存在する細胞膜のみならず、これに先行して細胞壁を標的とする可能性を示唆するものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。